



「国府の跡をその名にとめて、名勝旧跡昔を語る…」と校歌に謳われるように、奈良時代には地方統治機関として国府が置かれていたと考えられています。ほぼ同じ時代に地区内にある円照寺・多田寺・妙楽寺等も建てられ、歴史と伝統があふれる土地柄です。中世には、武田氏によって、伏原地区にある後瀬山城が築かれ、若狭地区の中心地として栄えました。現在座禅の修行に外国からもよく訪れる仏国寺や発心寺もこの時代に建てられたお寺です。

周囲は、高浜町の青葉山とともに「若狭富士」と呼ばれる多田ヶ岳（ただがたけ）を主峰とする山々に抱かれ、南川が潤す自然豊かで、風光明媚な田園地帯が広がります。近年は、市街地に隣接して2つの国道が交差する平野部には会社や工場が林立し新築住宅も増加の一途を辿り、かつて純農村地帯であった当地区も、人口増に伴う会社勤めや共働き家庭が増えて都市型生活へと変貌しつつあります。

本校では、米作り・野菜作り・地域探検等のふるさと体験学習や一輪車を活用した体力・気力づくりにも力を入れています。ふるさと学習では、公民館・老人会等地域の方々とは緊密に連携しながら取り組みを進めています。なかでも郷土研究クラブは、今富地区ふるさと祭りや、鎌倉時代に円覚上人に始められたと言われる壬生狂言を見事に演じ、地区の方から高い評価をうけるなど多くの成果をあげてきました。今年度も地域の自然や文化財に接する機会をできるだけ増やし、郷土（ふるさと）の良さを自覚させていきたいと考えています。